

# 課題プリント添削サービス

## ～入門 1 級～

以下の文章と文字を改行とスペースを意識して入力しましょう。

---

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さかきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてみたり。翁言ふやう、「わが朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。子になりたまふべき人なめり。」とて、手にうち入れて、家へ持ちて来ぬ。

妻の嫗(おうな)に預けて養はず。うつくしきこと限りなし。  
いとをさなければ、籠に入れて養ふ。

竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけてのちに竹取るに、節を隔ててよごとに黄金ある竹を見つくること重なりぬ。

かくて、翁やうやう豊かになりゆく。

この児、養ふほどに、すすくと大きになりまさる。三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどさうして、髪上げさせ、裳着す。

帳の内よりも出ださず、いつき養ふ。

この児のかたち、けうらなること世になく、屋の内は暗き所なく光満ちたり。

翁心地あしく、苦しきときも、この子を見れば、苦しきこともやみぬ。

腹立たしきことも慰みけり。

翁、竹を取ることに久しくなりぬ。

勢ひ猛の者になりけり。

この子いと大きになりぬれば、名を、三室戸齋部の秋田を呼びてつけさす。

秋田、なよ竹のかぐや姫とつけつ。

このほど三日うちあげ遊ぶ。

よろづの遊びをぞしける。

男はうけきはらず呼び集へて、いとかしこく遊ぶ。

世界のをのこ、貴なるもいやしきも、いかでこのかぐや姫を得てしがな、見てしがなと、音に聞き、めでて惑ふ。

---

課題は以上です。お疲れ様でした。